

高崎市文化事業広報誌

# 劇場都市

vol **06**

2018 WINTER  
Takasaki Cultural Event  
Information Magazine  
GEKIJOTOSHI

公益財団法人  
**高崎財団**  
The Takasaki Foundation

都市は劇場であり、劇場は都市である



都市は劇場であり、劇場は都市である

都市は、人生の喜怒哀楽が繰り広げられる舞台であり、都市そのものが劇場である  
そこで生まれる芸術文化は感動や創造性につながり、都市そのものを作っていく——  
「劇場都市」は、そこで生み出される文化芸術活動とそのドラマを紹介していきます

Contents

2 Interview I

日本の合唱指揮者の第一人者

つながりをはぐくむ芸術の力

三澤 洋史

6 movement

劇場都市 高崎の物語 5

丸山なくして群響なし、群響なくして丸山なし

丸山 勝廣

8 Interview II

“舞台監督”ってどんな仕事??

この道40年のベテラン!

岡野克己さんに聞く。

12 高崎財団 主催

2019 冬・春公演情報

裏表紙 MEET THE GSO

群馬交響楽団 楽団員インタビュー #06

ヴァイオリン首席奏者 池田 美代子

◆表紙:「Untitled」 by JON JON GREEN・松岡洋太  
1978年高崎市生まれ。多摩美術大学美術学部卒業。2004年よりライブペインティングを軸に制作活動を開始。



# 高崎芸術劇場

TAKASAKI CITY THEATRE

2019年9月20日オープン

高崎に日本を代表する新しい劇場が誕生



# つながりをはぐくむ 芸術の力

僕が時間を掛けてやりたいというのも、  
そこにつながりができるからです



日本の合唱指揮者の第一人者

## 三澤 洋史さん

新国立劇場の合唱指揮者として、日本のオペラ界を牽引する三澤さん。自身の生い立ちから文化芸術の役割まで、オペラ『カルメン』の合唱練習の合間をぬって、新国立劇場で熱い思いを聴きました。

### 合唱指揮者への道

——三澤さんは、どんな音楽環境で過ごされましたか。

父親が大工という職人の家庭で育ち、音楽的な環境はゼロです(笑)。家を継ぐ立場だったのでしようけど、音楽が好きで、中学でトランペットをやったり、独学でギターをやったり。高崎高校の吹奏楽部で打楽器を叩いていたら男声合唱部の声が聞こえてきてね、惹かれて合唱部に入りました。

高校OBの塚田佳男さん(伴奏ピアニスト、歌手)の指導がとにかく細かく丁寧で衝撃的でしたよ。「この歌詞はこういう意味だから、こんな気持ちでテンポを落として」と。今考えると原体験として大きいなあ。

僕は他の指揮者より、相当細かく指導するので、初めは反発もあったかと思えます。でも、作曲家が楽譜に記したとおり、緻密にやることにこだわりましたね。

——オペラの合唱指揮は、バイロイト音楽祭での経験が大きいですが。\*ワグナーのオペラを上演する音楽祭

ええ。ノルベルト・バラツチュという合唱指揮者のアシスタントをやった

### ◆三澤洋史 Misawa Hirohumi

1955年高崎市新町生まれ。群馬県立高崎高校、国立音楽大学声楽科卒業。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。1999～2003年、ワグナーの聖地バイロイト音楽祭で祝祭合唱団指導スタッフとして従事。2001年9月より新国立劇場で合唱指揮者を務める。その他、ベルリン交響楽団、ダブリン・聖セシリア管弦楽団、モナコ・モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団等を指揮。作曲や台本、演出も手掛け、ミュージカル「おにこころ」、音楽劇「ノアの箱舟」などを上演する新町歌劇団を結成。新国立劇場のこどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険」は「ニーベルングの指環」のハイライトを編曲。ウィーン国立歌劇場、チューリッヒ歌劇場でも上演された。上毛新聞社より上毛音楽賞受賞。JASRAC音楽文化賞受賞

のですが、彼は型破りな人で。通常、指揮者って発声の仕方までは口出ししないものなのですが、バラツチュは踏み込む。「ここまで言うのか。ここまて言わないと、このハーモニーにならないのか」と思いましたね。

彼は、ウィーン少年合唱団の団員だったので、発声の仕方を分かっている。彼が28年間で築き上げた合唱を見られたのは大きかった。

——三澤さんは、外国語をどのように身につけられましたか。

僕はドイツ音楽に傾倒して、パッハ、ベートーヴェン、ワーグナーを聴



新国立劇場合唱団のリハーサル風景

き、ドイツ語に馴染んでいた。でもやっぱり、オペラはヴェルディ、プッチーニ、イタリア語でしょ。それで、2011年、ミラノ・スカラ座に3ヶ月の特別研修に行きました。そこでオペラをどう創り上げるか学びながら、語学学校に通った。

僕みたいな年齢の生徒はいないから、しつこく質問にいくと先生も面白がって教えてくれてね(笑)。そこから、僕のイタリアオペラは生まれ変わったと思います。

フランス語については、シャルル・デュトワがN響の常任指揮者になった時、『火刑台のジャンヌダルク』という曲の依頼が来て、ソルボンヌ大学に一ヶ月の講習に行きました。

——合唱指揮者は、オペラにとってどんな役割でしょうか。

新国立劇場では年間10本程度の公演の合唱指揮者を担当していますが、まずは、立ち稽古前に合唱を音楽的に仕上げることです。合唱指揮者って中間管理職みたいな存在で、指揮者が全体的なところを見るのに対して、全体をつなげる役目。立ち稽古で動きがついて合唱にも指揮者や演出家から注文が出るので折り合いをつけていく。ですから、早いテンポ、遅いテンポでも練習しておきます。

一方でバラツチュのような、自分の意志を貫く合唱指揮者の存在には勇気をもたらした。指揮者の前でも自分を曲げずに主張する。ちよっと越権行為かなと思うところもあるのですが(笑)。「たかが合唱指揮者だろ」と言われる場面を見て「バラツチュの方が正しいな」とか、もちろんその逆もあります。自分だったらどうするか考えながら、確立してきました。

たえ現場で僕の指示が変更されたとしても、ぶつかり合った軌跡は必ず残ります。それは、お客さんが聴いたとき、必ず伝わると思っています。

——愛知祝祭管弦楽団ではアマチュアの方々による、年一回のオペラ公演が大好評のようですね。

ワグナーの楽劇『ニーベルングの





『魔笛』(2018.10.新国立劇場にて)カーテンコールに応える三澤さん(下段中央左)。右隣は指揮者ローラント・ペーア、さらに右隣に演出家、ウィリアム・ケントリッジ。両側にソリストとデザイナー陣、後ろに合唱団(新国立劇場提供)

した。一つ一つのモチーフを感じて、どういう場面で、色濃く出していか、まる一年かけて取り組みます。これは、バイロイトに対する僕のひとつの恩返しです。

ハーブはプロですが、ワグナーの指定通り六本でやります。そういう風に本格的に取り組まないと、本場のようにはできない。今年の『ジークフリート』は一週間で完売になりましたよ。

## 時間は最高の調味料

——オペラを創り上げていく魅力とは何でしょうか。

僕は、もともと時間をかけるのが好きなのです。僕が作ったミュージカル『おにころ』もそう。地元高崎に新町歌劇団をつくって上演しています。が、どっかから持ってきたものをやるのじゃ面白くも意味もないと思っています。市民に呼びかけて何ヶ月も時間をかけて、しっかりと稽古をつけて本番に臨みたい。

「時間は最高の調味料」というのを先日テレビで見てもね。「ナスの塩漬け」の話(笑)。塩に漬けておくだけだけど、それが最高の調味料になる。時間をかけて創り上げたものって他にかなわないものがある。

僕も、作品に没かる、向かい合う日々を作りたい。暗譜する必要のないものも暗譜してやることで、その生活の日々を作る。そうすると、出来上がったものの熟成度が違うのです。それを一番、大事にしていますね。

——逆に大変なところはありますか。

逆に取って大変なところに向かっているって、面白みを見出していますね(笑)。自分は、面倒くさいことが結構好きで、難しいことをしないと自分で作った気がしない。

親父が大工で、釘の打ち方からカンナの削り方まで全部手でやるでしょ。それを見てきて、僕にも職人気質みたいなものがある。『おにころ』も、86年からやって三十年近くになりますが、何もないところから自分の手で作ってみたかった。何もないところから、木を切ってきて家を建てるようなものだよ。

「おにころ」は自己犠牲的な生き方を描いていますが、初演した頃はパブル絶頂の91年頃。2011年の3・11

## 今こそ共生の時代

——文化芸術の役割についてお聞かせください。

これから文化芸術の役割は大きい。経済優先、自国有利、郷土有利に皆が動いていったらしょうがないと思う。

芸術の世界には、皆と皆がつながりたいという思いがある。ペーター・ヴェンが「他から他へ、魂から魂へ」と言ったように、つながりたい、分かち合いたい気持ち。良い映画を見たとき「これ、よかったよ、見なよ」、良い景色をみて「感動したから、行ってみよう」ってなるじゃないですか。

人類滅亡の危機を主人公の少年が救うというミュージカル『ノアの箱舟』を書きましたが、皆がエゴイステイックに生きて共食いしちゃうような、オーバーに言えば、世界がそんな方向に進んでしまうのを救うのは、つながろうとする力、互いを生かし合う気持ち。そういう風に生きていかないと人類はこの先、駄目なんじゃないか。

そこはやっぱり芸術の力が必要で、一部の人が暇をもらってあまして行くのではなく、もっと大事なものが芸術の中にあるし、なければいけないと思う。僕が時間を掛けてやりたいというの、そこにつながりができるからです。



「Nの発音は無しだよ」「あいまいな母音をしっかり出す」などフランス語を細かく指導

以降、随分台詞を変えました。同時に、お客さんの食つきも変わった。指揮者ってお客さんの様子を背中で受け取るものなのですが、初演の頃と3・11の後は全く違います。あれから人の心って変わってきたのかなと思います。

——オフは、スキーと水泳に熱心に取り組まれているそうですね。

きっかけは健康のためで、食事制限だけじゃ夢も希望もないですから。練習も結構和気あいあいとやっているでしょ。なかなかプロってあんな風にならない、もっとシビアです。でも、笑いの絶えない、居心地のいい団体になりたい。いがみ合う必要はない。交流することは大事です。それは、新町でも、愛知でも同じで、冷めちゃっているといいものは出来ないうです。

芸術には、人と人をつなぐ力があるんですね。これから、高崎から発信されるオペラの誕生も楽しみです。お忙しいところ、ありがとうございました。

(笑)。ウォーキング、自転車、水泳。水泳は腕の動きが、指揮に非常に役立ちます。スキーも音楽に近いです。スキーをやるようになってから音楽の作り方が変わったかな。ひとつのターンを仕上げて、次につなげていく感覚が、音楽のフレーズとそっくりなのです。次はこう滑ろうと、なめらかにつなげて計画的に滑ったり。思わぬ展開を捉えて、偶然を楽しみながらバリエーションしていくのもいい。同じコースでも、二回目は雪質も違いますから、一期一会みたいなものです。スキーは今や、音楽に次いで好きなものだな。

——2019年開館の高崎芸術劇場に、どんなことを期待されますか。

中身の充実ですね。「さすが、高崎」というものを作ってほしい。それと、横の連携もあるといい。ロームシアター京都の鑑賞教室で『魔笛』



いいものを見極める目を持ち、どう地元の人を巻き込んでいくかが大切だと思います。

2019/1~3 新国立劇場 オペラ公演情報  
R・ワーグナー『タンホイザー』 1/27(日)~2/9(土)  
~愛の苦悩を壮大に描いたワーグナーの人気作。  
【指揮】アッシャー・フィッシュ 【演出】ハンス=ペーター・レーマン  
西村 朗『紫苑物語』 2/17(日)~2/24(日)  
~新国立劇場から世界に放つ新作オペラ。  
【指揮】大野和士 【演出】笈田ヨシ  
マスネ『ウェルテル』 3/19(火)~3/26(火)  
~詩人ウェルテルの切ない恋の物語。  
【指揮】ポール・ダニエル 【演出】ニコラ・ジョエル  
\*いずれも【合唱指揮】三澤洋史、【合唱】新国立劇場合唱団  
新国立劇場/東京都渋谷区本町1-1-1 TEL:03-5351-3011  
https://www.nnttjac.go.jp/

丸山なくして群響なし、群響なくして丸山なし  
丸山勝廣かっひろ

時代を先取りした構想力と不撓不屈の精神で  
地方では不可能と言われたオーケストラを育てる

県内の児童・生徒に  
生のオーケストラの音色を届ける

群馬交響楽団は、昭和20年に「高崎市民オーケストラ」として創設されました。昭和30年に群響をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開されると約三百万人を動員し、全国的に注目を集めました。翌年には文部省より群馬県が全国初の「音楽モデル県」に指定され、昭和36年には高崎市民の全面的支援を受け「群馬音楽センター」が建設されました。昭和22年から続いている移動音楽教室は、平成27年までに延べ六百三十万人以上の児童・生徒が鑑



▲丸山勝廣(1914~1992)

賞しています。丸山勝廣は、草創期からマネージャーとして群馬交響楽団の舵取りをしてきました。群響が地方の管弦楽団の草分けとして輝き続けた背景に、丸山の大きな存在がありました。

## 群馬交響楽団の始まり

詩人萩原朔太郎が始めた「上毛マンドリン倶楽部」に、歌手として丸山が入団したのは昭和初期。終戦後、その団員たちが十人ばかりでアマチュアの「高崎市民オーケストラ」を結成しました。食べることすら困難な時代に、オーケストラをつくり、井上房一郎を会長に、丸山がまとめ役に就きました。丸山はそのときのことを「若さとはおそろしいものだ」と回想しています。



▲昭和20年代後半の移動音楽教室(群馬交響楽団50年史より)

## プロへの道 音楽教室

定期演奏会を重ねるうちに、アマチュアの限界を思い知ることになった丸山は、プロへの転向を図ります。周囲

の反対や拒絶に合いながらも音楽を趣味と考えた楽団員たちと決別し、音楽に人生をかけようと誓いました。

音楽で収入を得るため、「移動音楽教室」を始めました。オーケストラの説明にも苦労した時代、丸山は県内各地の中学校へ売り込みに出向き、音楽教室は徐々に軌道に乗りました。この教室では、若き小澤征爾、山本直純、岩城宏之などがタクトを振っています。

映画から「音楽モデル県」指定、  
「音楽センター」建設

映画「ここに泉あり」のヒットで、申し込みが減りつつあった移動音楽教室は盛り返しました。丸山はこの機を逃さず、群馬県を全国でたった一つの音楽モデル県にするため、陳情書を文部省に提出し、昭和31年に指定を受けました。それは、音楽ホール建設にもつながり、市民運動を展開して募金を集め、国からの補助金を受けるなど長い

準備期間の後、昭和36年に「群馬音楽センター」の完成をみました。

## 群響のお家騒動

「音楽モデル県」「音楽センター」「国庫補助の実現」「京都・札幌・高崎三市交響楽団特別演奏会」と、丸山は、群響存続のために目新しい成長のチャンスに飛びつき奔走しました。しかし、楽員の丸山への不満が表面化。「われわれの使命は、N響と同じくらいうまくなることではなく、群馬県に音楽を広めることだ」という丸山と、「音楽的にすぐれたオーケストラにしたい」という楽員の理念がぶつかり合いました。事態は混乱をきわめ、総員32名のうち退団者は21名。住谷市長が事態の収

無冠のまま信念を貫いた  
孤高の人生

一風変わったこの人物に初めて会った人の大半は、その学歴や経歴に興味を抱きます。これを予期してか、初対面の人に「私は小学校しか出ていません」と、まずことわり、相手がどんな人物であろうと堂々と持論を述べ、体験を語るのです。

人々は彼のユニークな発想やスケールの大きい構想に驚き、高い見識やたくましい実行力に目を見張ります。だから、実行力の乏しい学者や官僚、ジャーナリストには丸山ファンが意外に多いと、友人であった元上毛新聞社副社長白田柳二は『泉は涸れず』に寄稿しています。

学歴も経歴も持たないながら、裏方に徹し二十数団体ものオーケストラを日本に根付かせる牽引力となった丸山。日本の音楽文化史に大きな足跡を残しました。無冠への逆風は、想像以上に強く、それでもなお信念を貫いた孤高の姿に、比類なき人格を見ることができます。

1992年3月31日  
丸山勝廣の音楽葬

丸山勝廣は1992年2月28日に亡くなりました。77歳でした。3月31日に群馬音楽センターで行われた音楽葬は、群馬交響楽団の演奏の中で最も感動的なものであったと今でも語り継がれています。小澤征爾がバッハのアリアを指揮しました。曲が始まった途端に心が揺さぶられ、その美しい音に惹きつけられたことを筆者は未だに覚えています。丸山勝廣への小澤征爾の想い、群響楽団員の想い、そして丸山勝廣を敬愛し会場に参列した音楽を愛する人々の心が一つになった瞬間でした。その時、筆者は丸山勝廣は「美しい人」だと思いましたが、「丸山なくして群響なし、群響なくして丸山なし」と確信したのでした。

音楽葬では、山本直純の指揮でモーツァルトのレクイエムより「ラクリモーサ」が群馬交響楽団合唱団とともに捧げられました。また手塚幸紀の指揮でグリークの「過ぎにし春」、バッハの「甘き死よ来れ」が捧げられました。そしてベートーヴェンの交響曲第3番第2楽



▲音楽葬で指揮台に立つ小澤征爾(写真提供:丸山万里子)

※参考資料『群馬交響楽団50年史』『愛のシンフォニー 群馬交響楽団の38年』

章「葬送」の演奏が流れる中で献花を捧げたとき、筆者は20代の頃に群響の事務所や「あすなろ」で丸山勝廣が語ってくれた言葉の数々が思い出され、自分もこんな生き方をするのかなと思えました。

丸山勝廣が眠る並榎山常仙寺の墓銘には「泉は涸れず」と刻まれています。



▲小澤征爾と談笑する丸山勝廣(写真提供:丸山万里子)

どんな仕事???

この道40年のベテラン!

# 岡野克己さん に聞く。



岡野克己・OKANO KATSUMI

'57年、東京生。高校卒業後、ジャズドラマー猪俣猛のもとスタッフとして活動。'79年クリエイティブ大阪に入社。岸洋子、服部克久、TUBE、中島みゆき、高橋真梨子、松任谷由実などの公演、クラシック、舞台等を手掛ける。宮崎シーガイア「オーシャンドーム」建設プロジェクトにも参加。高崎芸術劇場・舞台技術監督。

キヤッツのボウヤが小松正夫さん。僕は、現場で音響を手伝ったりするうちに、猪俣さんに「ドラムより、そっちの方が向いてるんじゃないの?」と言われて、今の会社を紹介されたのです。

——どんなジャンルの公演を手掛けてきましたか?

僕は恵まれていて、ミュージカルや

お芝居、クラシック、能や歌舞伎も一通り勉強しましたね。でも初めは、舞台のルールやしきたりが分からずに随分、怒られました。

例えば、電飾と照明は別担当なのですが、照明さんに電飾を頼んでしまつて。そしたら嫌々やっていたるわけです。後々聞いたなら、「それは、電飾っていう業種が別にあるのだ」と言われてね(笑)。

最終的に求められるのは芸術的感性

——あらためて、舞台監督のお仕事ってなんですか?

僕は、潤滑油みたいなものだと思います。「こういう催し物をこういう演出でやりたい」という演出家がいるので、そこで使う大道具、それを描くデザイナーなど、全てをうまくつないでいかなければならない。「このストーリーを、こういう音響で、こういう衣装でやろう」と判断してつないでいき、時間内に収める。「時間＝お金」ですから、予算のことも考えつつ、この位の期間で仕上げたいこうと、スケジュールを立てて調整していくわけですね。

——きめ細かな感性と経験値が必要ですね。当日はどんな動きをされますか?

私の中では、当日までに八〜九割出

来上がっています。今は、アシスタントに舞台の平面図も描いてもらつて、スケジュールの組み立て方も書いてもらっています。当日は、皆がやりやすいように進行していくことですね。

——図面を描かれるというのは、絵心も必要なのではないですか?

一概に言えませんが、実は僕は、中学生まで絵を描いていて、将来は絵描きになるんだと思っていた(笑)。それは、直接関係はないですけどね。

ただ、最終的には芸術的感性が求められると思います。例えば、ある一曲を想定して舞台を作るとき「どんなセットで、どんな照明をするか」考えるわけでも、歌詞の内容はそうとは限らないこともある。曲の本質や歌手の心

コンサートやイベントの舞台裏には、大勢のスタッフが携わっている。演出家・大道具・小道具・照明・音響・映像・衣装担当など。そこには、全体を俯瞰する「鳥の目」と、細部を見逃さない「虫の目」を持ち、舞台全般を統率し、時間と行程、安全管理、本番進行を行う「舞台監督」の力が必要となる。岡野克己さんは、あらゆる公演で舞台監督を務めてきた経験から、二〇一九年九月にオープンする「高崎芸術劇場」の舞台技術監督を任されている。

ロック全盛期に覚えたコンサートの仕組み

——まずは、岡野さんが舞台監督という職業に進んだ経緯を教えてください。

70年代、まだポップス音楽のコンサートには舞台監督が存在しなかった当時、「ないならやろう」と舞台監督を専門に行うクリエイティブ大阪が創業しました。77年に東京に拠点を移し、僕は79年、21歳のとき紹介されて入社しました。初めは、アシスタントとしてハイファイセットや、さだまさしさんなどの公演に一、二年ついていましたね。

——この仕事についたきっかけは、どんなことでしたか?

僕の高校時代は、ロック全盛期で、グランドファンク、レッドツェッペリン、キングクリムゾン、イエスとかものすごく流行っていました。アマチュアバンドを結成した仲間が「練習ばかりじゃつまらない。どこかホールでやりたい」と。そこで僕は機材集めをし

境も理解できないと、深みのあるステージにはなりません。

——岡野さんは、松任谷由実(ユーミン)さんのステージを長く手掛けられてきたそうですね。

元々、うちの会社で長くやってきて、僕が関わりだしたのは99年頃からです。そこで、海外のセットデザイナーとか照明デザイナーとお付き合いするようになって、感性の違いや仕事の進め方に大いに刺激を受けました。

——ユーミンさんのコンサートといえば、シヨースタイルで華やかですね。

デビュー当時から彼女のコンサートはシヨースタイルで、特にビジュアルにこだわっています。もちろん、音楽・歌が中心にあり、その世界観に照明や舞台セットが、どれだけ合わせる事ができるかです。舞台セットに関してはオールペインティング。床からセットまで、パネル一枚でもペイントで表情をつけるので、ライティングするとグッと深みが増します。そこに「明かりをこう照らすから、もう少しシャドーをつけよう」とか「ハイタッチにしよう」とデザイナーと話して創

り上げていきますね。

——ライブ本番は、さすがにお忙しいでしょうね。仕事の醍醐味は何ですか?

ユーミンの場合、僕は「大道具ですよ(笑)。お手伝いというかな。「この流れなら間違いない」と、その前にもう流れは決めちゃっているから。全体の仕切りは、今はアシスタントがやりますからね。

醍醐味は、「思い描いたとおりになったな」ってことですかね。キャリアを積んできて今は、大概は思ったとおりになるので、「ここはうまく、はまったね」とか、照明ともよく話します。



松任谷由実のコンサート会場で。準備を終え、開場を待つばかり

# ロシア音楽の大傑作をピアノ原曲とオーケストラ版で聴く！ ムソルグスキー《展覧会の絵》

ロシアの作曲家ムソルグスキー(1839-1981)による組曲『展覧会の絵』は画家・建築家で彼の友人だったハルトマンの遺作展で見た10枚の絵から着想を得て音楽に仕立て上げた作品。完成は1874年、ピアノ独奏のために書かれた。「プロムナード」、「古城」、「キエフの大門」といった標題の付された小曲で構成され、バラエティにとんだ旋律がめくるめく登場することから、ムソルグスキーとしては現在もっとも知られている作品の一つといえる。

とはいえ作曲家の生前は技巧的な難しさや独特の作風から一度も演奏されることはなく、死後になって友人の作曲家リムスキー＝コルサコフが遺稿の中から発見して補筆、1881年に楽譜が出版された。

そしてこの作品が世界的に知られるようになったのは20世紀になってからのこと。フランスの作曲家ラヴェルがオーケストラ版に編曲、1922年のパリは初演され大成功を収めている。

この名曲を「ピアノ原曲」とラヴェル編曲による「オーケストラ版」で続けて聴くことができる演奏会を2月上旬に開催する。

7日(木)は「オーケストラ版」を大植英次指揮、群馬交響楽団が演奏する(群馬音楽センター)。これまでの客演でも抜群の統率力で熱演を聴かせてくれたマエストロのタクトに期待したい。翌々日の9日(土)はロシアの俊英セルゲイ・カスプロフが「ピアノ原曲」を弾く(高崎シティギャラリー・コアホール)。カスプロフは2015年に初来日、ここ高崎でデビューした。旧ソ連時代の響きを感じられる強靱なピアノは鮮烈な印象を残したが、今回さらなる深化に触れることができるだろう。

なお、『展覧会の絵』と並ぶムソルグスキーの代表作『禿山の一夜』も双方の演奏会で取り上げる。こちらはオーケストラの原曲を、リムスキー＝コルサコフがピアノ版に編曲している。そんな奇しき縁が交錯する高崎のステージ・シーン。興味が尽きない。

## セルゲイ・カスプロフ ピアノ・リサイタル

2019年2月9日(土) 14:00開演(13:30開場)  
高崎シティギャラリー コアホール

出演  
セルゲイ・カスプロフ(ピアノ)

曲目  
ラヴェル:夜のガスパール  
ムソルグスキー/フドレイ:禿山の一夜  
ムソルグスキー:展覧会の絵 ほか

全席指定  
3,000円(友の会2,700円 U-25 1,500円)

※演奏曲目は変更になる場合がございます。 ※やむを得ず公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換はいたしかねますのでご了承ください ※U-25料金は公演当日25歳以下の方が対象です ※未就学児の入場はご遠慮ください。

人が演じるものに人は集まる。  
これは普遍だと思います。



分らないですからね。クラシックも古典芸能もそうで、古典だから演出照明は要らないよっていうのでは止まってしまう。

——伝統芸能も進化するわけですね。

——新しい技術もどんどん取り入れていくのですか。

「保守になってはいけない」と思っています。新しい技術、テクノロジーはどんどん取り入れる。照明や映像なんか日進月歩で変わっていて、良し悪しはあるけれど取り入れていかないと

## 高崎発の公演を全国展開できたら

——現在、高崎芸術劇場の建設が進んでいます。岡野さんは舞台技術監督というお立場ですね。

図面が大方、出来ているところで、音響や照明など、どういうものを導入

日本人って、芸能とか音楽、スポーツも含め、あらゆるアミューズメントが大好きだと思います。夏休み、都内で色々なイベントがあって、ディズニーランドがあって、帝劇や明治座で毎日お芝居をやっている。野球場には五万人が集まる。週末に動くこれらの人数やお金を考えると、ものすごいエネルギーです。ネットでつながった人達のイベントでも幕張に、何万人も集まるんですよ。舞台という「人が演じるもの、作るもの」に、人は集まる。これは、普遍だと思うのです。

大劇場はものすごく高性能ですから、予算と時間に関わることでですけど、高崎発の公演を作って、全国展開できたら面白いと思います。コンサートやミュージカルなど、東京発のものばかりでなく、こちらから発信するものを生み出せたらいい。

したらよいか検討するなど、基本的な考え方を担当しています。照明や音響技術は、これから5年、10年で劇的に変わっていくだろうと思いますから、新しい技術にも対応できるようにしておくことが大切ですね。

それから、イメージ戦略も必要ですね。建物を作るのにも、そこにストーリーをつけて演出すると、その名称もついて、従業員の衣装も仕上がっていくわけですね。コンセプトを何かひとつ作ってあげるとどんどん発展していく。ですから、高崎芸術劇場に色付けが始まっていくといいなと思います。何にでも対応できるホールだけど、こういうことが得意だよという顔になるも

——高崎芸術劇場の特徴は、どんなところですか。

高崎芸術劇場の特徴は、二千人規模の大劇場、ライヴハウスなどに使えるスタジオシアター、音楽専用ホールの三つがあることです。これは、なかなか他にないホールです。37万人という高崎の人口に対して、ものすごく立派なホールであると同時に、周辺の都市や県、東京からお客さん呼び込めるところだと思います。新幹線で東京から本場に近いですからね。

——高崎芸術劇場で行う、どんな公演をイメージしますか。

休みのない月もあります。散歩したり、料理したり。料理は、かなりストレス解消になる。これを混ぜたらどうなるかなとイメージして作ります。あと、音楽がやっぱり好きです。役得だなど思うのは、クラシックの室内楽なんかの公演ですね。リハーサル中、僕は客席にいますが、その時の演奏ってね、演奏者がリラックスして肩の力が抜けていて、とつてもいい。全曲やるわけじゃないですけど、ホールで、数人で聴けるわけで、これは役得です。

——お忙しいお仕事ですが、休日ほどんな風に過ごされますか。

の。それを具体的に決めて、プロデューサーをたてるのもいいかもしれない。これという方針を示していくと骨格が出来ていきます。公共のものだから難しい部分もありますが、キャンペーンやアピールがしやすい。そういう中で、年に一回でも高崎発のものがあるといいですよ。

——大勢の人が集まるイベントの総指揮を務める舞台監督さんは、統率力や決断力と共に芸術的感性も欠かせないお仕事だと感じました。今日は、お忙しいところありがとうございました。



©Kana Tarumi

## 群馬交響楽団 平日午後公演《展覧会の絵》

2019年2月7日(木) 13:30開演(12:45開場)  
群馬音楽センター

出演  
大植英次(指揮)  
セルゲイ・カスプロフ(ピアノ)  
群馬交響楽団(管弦楽)

曲目  
ラフマニノフ:バガニーニの主題による狂詩曲(ピアノ:カスプロフ)  
ムソルグスキー/R.コルサコフ:禿山の一夜  
ムソルグスキー/ラヴェル:展覧会の絵

全席指定  
S席4,000円(友の会3,700円、グループ3,000円)  
A席2,500円(友の会2,200円、グループ1,500円、U-25 1,000円)  
※グループ料金は4枚以上まとめて購入した場合の1枚当たりの特別料金。  
※グループ券は窓口販売のみでの取扱いです。

## 第29回高崎元旦コンサート



オーケストラによる演奏会としては、その年に日本で最も早い時間に開演するのが群馬交響楽団による「高崎元旦コンサート」だ。ここ数年は毎回チケットが完売となるなど高崎の新年の風物詩として定着している。

29度目の開催となる今回は、一年の幕開けにふさわしい躍動感あふれるプログラムが組まれている。

タクトをとるのは鈴木秀美。パロック・古典派演奏のスペシャリストとしておなじみの名匠による選曲は「ワルツ」と「タンゴ」がテーマ。

ソリストにも注目したい。ピアソラのタンゴ作品にはバンドネオンの新境地を切り開く三浦一馬を独奏に迎える。超絶技巧の歌唱が各地で賞賛されるソプラノの中江早希はブッチーニの名アリアを歌い上げる。さらにこの指揮者にとっては自家築籠中の物といえるハイドンのシンフォニーが盛り込まれるなど、豪華おせち料理のような彩り鮮やかな取り合わせと言える。

群馬音楽センターの空間ならではのステージと客席の間に醸成される一体感は独特なもの。定番の「ラデツキー行進曲」は客席からの手拍子とともに楽員のボルテージが最高潮に達し、圧巻だ。

平成最後の「高崎元旦」を、どうかお聴き逃しなく。

2019年1月1日(火・祝) 13:30開演  
会場/群馬音楽センター

Ⓜ鈴木秀美(指揮)、中江早希(ソプラノ)  
三浦一馬(バンドネオン)、群馬交響楽団(管弦楽)  
Ⓜヨハン・シュトラウスII世/喜歌劇「こうもり」序曲  
ピアソラ/バンドネオン協奏曲「アコンカグア」から第3楽章  
ブッチーニ/歌劇「蝶々夫人」から「ある晴れた日に」  
ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314 ほか  
Ⓜ全席指定5,000円(友の会4,700円 U-25 2,000円)

高崎財団が自信を持ってお届けする珠玉の公演の数々。  
ここでしか出逢えない一期一会の公演をお見逃しなく!

## コアホール落語会



“日本の伝統話芸の妙を愉しむ”をモットーに展開する「コアホール落語会」は、通をも唸らせる本格的な内容と好評だ。2月の高座にも、まさに今聴いておきたい名人が登場する。

軽やかで快いテンポの語り口が落語ならではの満足感を味わわせてくれるベテラン入船亭扇遊。また玉川太福は浪曲界に新風を吹き込む逸材だ。さらに曲独楽のやなぎ南玉は熟練の技と巧みな話術で会場をいっそう盛り上げる。来場者にもれなく用意されるオリジナル手ぬぐいもお楽しみに。

2019年2月2日(土) 13:30開演  
会場/高崎シティギャラリー

Ⓜ入船亭扇遊(落語)、春風亭柳若(落語)、やなぎ南玉(曲独楽)  
玉川太福(浪曲)、三遊亭ぐんま(落語)  
Ⓜ全席指定2,500円(友の会2,200円 U-25 1,500円)

## 人形浄瑠璃 文楽



国立文楽座による公演は高崎では7年ぶり。人間国宝の吉田和生(昼の部のみ)を筆頭に人形遣いが操る繊細な動きと浄瑠璃が織りなす伝統芸能の舞台を存分に堪能できる。

2019年3月14日(木)  
昼の部13:30開演/夜の部18:00開演  
会場/高崎市文化会館

Ⓜ昼の部 「義経千本桜」椎の木の段、「義経千本桜」すしやの段  
夜の部 「義経千本桜」道行初音旅、「新版歌祭文」野崎村の段  
Ⓜ全席指定 S席4,000円(友の会3,700円)  
A席3,000円(友の会2,700円 U-25 1,000円)  
昼夜通し券 S席6,000円(友の会5,500円)、  
A席4,000円(友の会3,700円)

★字幕表示(舞台下手)あり。  
★昼夜通し券は窓口のみでの取り扱いです。

12/14(金)  
発売

## ソフィー・ダルティガロング ファゴット・リサイタル



1991年フランス生まれのソフィー・ダルティガロングは20代ながらその経歴の華々しさに圧倒される。2012年にベルリン・フィルハーモニーに入団、翌年にはミュンヘン国際音楽コンクールで最上位を受賞。そして2015年にはウィーン・フィルハーモニーに入団。同団史上初の女性管楽器首席の就任は大きな話題となった。世界最高峰の2大オーケストラが認めた音色を自身の耳で確かめたい。

2019年3月9日(土) 14:00開演  
会場/高崎シティギャラリー

Ⓜソフィー・ダルティガロング(ファゴット)、沢木良子(ピアノ)  
ⓂJ.S.バッハ/無伴奏フルートのためのパルティータ イ短調 BWV1013 ほか  
Ⓜ全席指定3,000円(友の会2,700円 U-25 1,500円)

※U-25料金は公演当日25歳以下が対象です。

## チケットインフォメーション

窓口 ●8:30-17:15 年末年始(12/29~1/3)は休み

窓口	電話番号	定休日
群馬音楽センター	027-322-4527	月
高崎市文化会館	027-325-0681	月
高崎シティギャラリー	027-328-5050	なし
箕郷文化会館	027-371-7211	月・火
新町文化ホール	0274-42-9133	月・火
榛名文化会館	027-374-5001	月・火
吉井文化会館	027-387-3211	月・火
高崎市倉沢支所(地域振興課)	027-378-4522	土・日・祝
高崎市群馬支所(地域振興課)	027-373-2604	土・日・祝

※電話予約は発売日翌日より受付いたします。  
※但し、群馬音楽センターのみ1/1(火・祝)は開館します。

## インターネット

高崎財団インターネット チケットサービス(発売日は13:00から)  
<http://takasaki-foundation.or.jp/syusaijigyou/>

## 「高崎市文化事業 友の会」

会費 短期会員 1,000円 継続会員 1,500円

有効期間 入会日から平成31年3月31日まで

★詳しくは、高崎財団HPをご覧ください

<http://takasaki-foundation.or.jp/>

★ツイッターでも情報発信中 [@bds04884](https://twitter.com/bds04884)

※高崎市文化事業友の会は平成31年3月31日をもって終了となります。  
新しい会員制度については詳細が決まり次第、HP等でお知らせいたします。



# MEET THE GSO

GUNMA SYMPHONY ORCHESTRA

群馬交響楽団  
楽団員インタビュー

Vol.6

脈々と引き継がれる70年の群響サウンド  
それを奏でる個性あふれるメンバーたち  
楽団員を知れば群響がもっと好きになる

群馬交響楽団 ヴィオラ首席奏者

## 池田 美代子

いけだ みよこ



ヨガにダンスに弓道。  
身体も楽器の一部としてメンテナンスします

「身体も楽器の一部。メンテナンスして理想の音に近づけます」群響首席奏者21年の池田さんは、温かく柔らかいヴィオラの音色に惹かれるという。元はヴァイオリン専攻。ヴィオラ奏者としては華奢な体格、という周囲の反対を押し切った転向だった。

### 🎵 スポーツで体幹を鍛える

「子供の頃から練習が苦手な上に、身体も手も小さくて。いかに効率よく弾けるかを考えてきました」と謙遜するが、休日はジムに通い、ヨガやダンスに励む。さらには整体師のパーソナルトレーナーの下、体幹を鍛えた。

お手本は憧れのヴァイオリニスト、ダヴィッド・オイストラフだ。動画をトレーナーに見てもらい、身体の動きを研究した。「ヴァイオリンでチェロのような太い音を出し、正統的な音を奏でるヴァイオリニストの神様です」

さらに、武道の身のこなしを奏法の参考にすべく弓道にも挑む。極意は「余計な事をしない」こと。的は狙うものではなく、正しい姿勢、正しい動きをすれば当たると言われます。楽器も正しい姿勢と奏法で、イメージする音に近づけると思うのです」

事実、自身の奏でる音に、確かな感触を得ている。「腕は肩甲骨から伸び、その延長上に楽器を感じられるようになってきました」

### 🎵 今できることを懸命に

六歳でヴァイオリンを始め、ヴィオラに触れた中学生のとき「ハーモニーの色を変える役割は面白い。これなら、やりたいことができる」と確信した。

しかし大学卒業後二年、研修先のドイツで「君はどう弾きたいの？」と聞かれ、応えられない自分にショックを受けた。「何も考えていない私はダメだ」。それでも、長所を引き出してくれる先生の手腕で自信を回復、決意を新たにスタートした。

「今できることを懸命にやってきました」長年、楽団の一翼を担ってきた首席奏者はそう振り返り「こんな音色が出るようになったのか」と楽団の成長にしみじみする場面も多いという。

2019年秋、新たな劇場がオープンする。「良いホールにふさわしい音が、いつでも出せる楽団でありたいですね」

### Miyoko Ikeda

- 出身 千葉県 ■ 入団 1997年9月
- 最近の印象に残っているコンサート  
群響特別演奏会・J.S.バッハ/ミサ曲口短調(2018.3富岡市)。指揮者・鈴木秀美氏の音楽に対する純粋な姿勢、音楽観に共感。
- 好きなアーティスト  
ダヴィッド・オイストラフ(ヴァイオリン)  
ヴォルフガング・クリスト(ヴィオラ)
- 好きな楽曲  
バッハの「マタイ受難曲」、R・シュトラウスの「メタモルフォーゼン」など「泣けてくる」曲が好き。近現代では、ヒンデミットやバルトークの作品。